

知事あいさつ要旨

皆さん、おはようございます。今回も大変お忙しいところご参集いただきまして、ご出席賜りまして、誠にありがとうございました。

本年度第1回の行財政改革推進委員会でございますけれども、どうぞよろしく願いいたします。私にとりまして新しい任期の初年度でありまして、また、初心を忘れずに、特に行財政改革には魂を入れて当たりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いを申し上げます。

今年度は知事選があった関係で2回に分けて予算を編成するというところで、2回目の補正予算を発表したところでございます。東日本大震災を受けまして、地震防災対策を強化するということがひとつ。それからもうひとつは、やはり、安心・活力・発展のビジョンを更に前に進めるという、この2つで予算を編成させていただいたところでございます。補正額は全体で546億4千900万円ということでございますが、先ほど申し上げましたように2度で分けてやっております。1度目2度目を合計しますと、5千982億9千100万円ということでございまして、前年当初に比べますと0.8%の増ということになっております。財源の方を見ても、大震災のおかげで、やはり県税、或いは地方交付税、こちらの方は減額をせざるを得ないというような状況で、たいへん厳しい状況でございましたけれども、先ほど申し上げましたように地震防災対策について特に命をつなぎ、或いはまた物資の輸送のネットワークになる道路等の補強、整備等はしっかりやっていく必要があるということもありまして、寧ろ皆さんにご尽力をいただきまして財政調整用基金、貯金があるものですから、それを今こそ使おうじゃないかということでだいぶ使わせていただきまして、先ほどのようなプラスな積極予算を編成させていただいたところでございます。じゃあ、貯金の財政調整用基金の方はどうか。大丈夫かというご質問もあるかも知れませんが、そちらの方はお陰さまでだいぶ貯金がありましたから、この委員会でも財政規模の5%ぐらいは貯金をつくる必要があるだろうと。先ほど申し上げましたように、全体が6千億円ぐらいございますから、5%といたしますと300億円ぐらいですけども、先ほどのように、今回の補正予算、大幅に取り崩したあとでございまして、今年度末は300億円をちょっと超える財政調整用基金が残るだろうということで、そっちの方は何とかクリアするんじゃないかなと、こう思っているところでございます。そのへんを県債でやったのではないかとこの心配もいただくかもしれませんが、県債残高につきましても、国からの交付税の代わりに臨時財政対策債ということで借金をしておるという話がありますが、それは後ほど全部国が交付税で見ることになっておるわけですけども、それを除きますと、実質的な県債残高の方は196億円のマイナスと、前年度に比べまして、こっちの方は10年連続だと思えますが、減少ということになりました。従ってこういう時節柄、積極予算を組みながらも皆さんのご指導のおかげで財政的にはだいぶ余裕が出てきておりましたから、その分を使って財政の健全性については、これを損なうことなく、予算を組めたので

はないかというふうに思っております。これも偏に皆さんのご指導のおかげでございまして、これからもそういう気持ちで県政にあたりたいというふうに思っているところでございます。以上、補正予算についてご報告をさせていただきました。

本日は3点、ご審議をお願いしたいと思います。1つは外郭団体の事業運営等についてであります。2つ目は情報システムの活用状況について、そして3つ目は、指定管理者の評価制度についてご審議をいただきたいというふうに思っております。

いろいろ今日もご指摘を賜ることが多いんですけども、何れもたいへん大事な課題でございますので、是非よろしくご意見いただきたいと思っております。ありがとうございました。